神奈川県

参考資料３

赤ちゃんのお耳の聞こえを確かめましょう！！



赤ちゃんのすこやかな成長は皆さんの望みです。
赤ちゃんの1,000人のうち１～２人は、
生まれつき耳の聞こえにくさがあると言われています。
新生児聴覚スクリーニング検査を受けて、
耳の聞こえを確かめましょう！

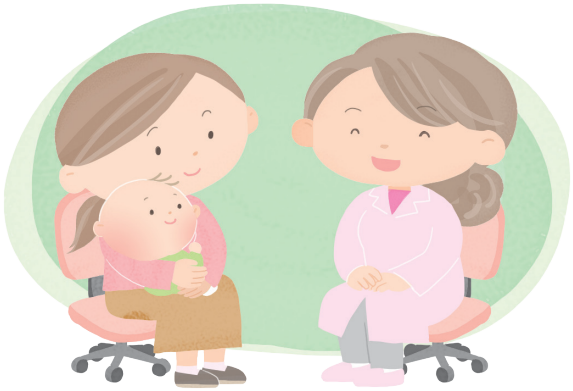
お子さんのことばは、家族との生活の中で一緒に喜んだり楽しんだりすることにより、育っていくものです。
耳の聞こえは、ことばや心の発達に大切な役割を持っています。

耳の聞こえは、中耳炎などによって、後から悪くなる場合もあります。

子どもの育ちは、一人ひとり違いますが、「眠っていて、突然の音に目を覚ます（１か月頃）」、「テレビの音などに顔を向けることがある（３か月頃）」、「声をかけると振り向く（６か月頃）」など、成長するにつれて、実際の音への反応もわかりやすくなります。

お子さんの聞こえや、ことばの発達を見守っていきましょう。

気になることがある場合は、かかりつけの小児科や耳鼻咽喉科の医師やお住いの市町村の保健師にご相談ください。



市町村の母子保健担当課

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/cnt/f888/sityouson.html

発行 **神奈川県健康医療局 保健医療部 健康増進課**
電話 045-210-4786
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/cnt/f888/st-index.html

どうして検査を行うのですか？

耳の聞こえは、外見ではわかりにくいものです。お子さんの耳が聞こえにくいことに気づかずにいると、ことばの発達が遅れたり、コミュニケーションがとりにくくなることがあります。



検査で早めに発見することにより、専門の施設などで適切な支援を受け、心身のすこやかな発達が望めます。生後１か月以内までに検査を受けることが大切です。

どこで受けられますか？

出産した医療機関などで、退院までの間に検査を受けます。検査の実施について、主治医や医療機関の窓口で確認しましょう。



出産を予定している施設が検査を行っていない場合は、退院後に、他の医療機関で検査のみ受けることになります。

主治医などに相談してみましょう。

検査実施施設

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/cnt/f888/st-sisetsu.html

どんな検査ですか？

赤ちゃんが眠っている間に、小さな音を聞かせ、反応を検査機器で確かめます。検査は数分から10分以内で終わります。

自動ABR（自動聴性脳幹反応）と、OAE（耳音響放射）の２種類の検査機器があります。

どちらも痛みや赤ちゃんの体への影響のない安全な検査です。



スクリーニング検査とは

詳しい検査が必要かどうかを調べるための簡易検査



検査結果の見方

パス あるいは **リファー** の結果がでます。
（要再検）

パス　聞こえの反応があったということです。

リファー　今回の検査では反応が確認できなかったため、詳しい検査が必要となります。耳が聞こえていないと判断されたのではありません。

お子さんの体調のよい時に、耳鼻科の専門医療機関や聴覚精密検査を行う医療機関を受診しましょう。